

I. 神奈川県内 c. 海成・河成堆積物

(12) 杉田東漸寺貝塚自然貝層 露頭剥ぎ取り標本

標本番号 KPM-NP 25

標本名 杉田東漸寺貝塚自然貝層 露頭剥ぎ取り標本

大きさ 幅 2.9 m, 高さ 1.6 m

重量 37.5 kg

形状・展示・収納状況 やや厚い絨毯状、折りたたみ
大型移動棚に収蔵

採集地 神奈川県横浜市磯子区杉田一丁目

緯度・経度 N35°23'08", E139°37'02"

標高 4 m

露頭の種別と現状 発掘調査トレンチ（杉田東漸寺貝塚、横浜市立杉田小学校校庭整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査）、消失

露頭面の向き、傾斜 北西面、傾斜垂直

走向・傾斜 ほぼ水平

堆積物の種別 海成層～褐色土～表土（旧表土を含む）

年代 縄文後期ないし縄文晩期（松島ほか, 2006）

採集作業者 森山哲和（考古造形研究所）

採集立会い者 松島義章、田口公則

採集日 2005 年 6 月 14 日

その他 平成 17 年に実施された横浜市立杉田小学校校庭整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査において 10 トレンチ 3m 幅部の東端の遺構壁面に露出した自然貝層を剥ぎ取りした。

関連文献等

横浜市教育委員会・財団法人横浜市ふるさと歴史財団（2006）杉田東漸寺貝塚本発掘調査報告 2－横浜市立杉田小学校校庭整備工事に伴う埋蔵文化財本発掘調査報告書－。

松島義章・田口公則・川名ひろみ（2006）第 3 次杉田東漸寺貝塚発掘調査で出土の貝類について、杉田東漸寺貝塚本発掘調査報告 2, 73-93。

解説 剥ぎ取り下半部に厚さ約 20 cm の貝化石密集層を挟む。自然貝層の主な構成種は、ハマグリ、シオフキ、イボキサゴであり、アサリ、ウミナナなども含む。すなわち、内湾砂底群集を優勢としている。

貝化石はいずれも離弁で、水流の影響を受け堆積し密集したものであろう。貝化石密集層の上位は、褐色土となる。さらに最上部は、旧表土ないし表土の痕跡を持つ。上端はほぼグラウンド面となる。縄文後期から縄文晩期に形成された杉田貝塚と同時期にあたる自然貝層であり、貝塚形成期の海岸の状況を知る貴重な資料といえる。

記録者 田口公則・大島光春



図 1c-12-2. 剥ぎ取り標本の採集露頭（自然貝層、トレンチ面）。



図 1c-12-3. 貝化石密集部の近接写真（剥ぎ取り作業後）。



図 1c-12-1. KPM-NP25, 26 の採集地点（国土地理院発行の数値地図 50,000（地図画像）「埼玉・東京・神奈川」を使用）。



図 1c-12-4. 剥ぎ取り標本の採集の様子。



図 Ic-12-5. 剥ぎ取り標本の写真.

標本番号 KPM-NP 26

標本名 クジラ化石を含む杉田東漸寺貝塚 露頭剥ぎ取り標本

大きさ 幅 0.57 m, 高さ 0.53 m

重量 2.6 kg

形状・展示・収納状況 やや厚い絨毯状、NP 25 とともにそのまま大型移動棚に収蔵

採集地 神奈川県横浜市磯子区杉田 1 丁目

緯度・経度 N35°23'07", E139°37'01"

標高 4 m

露頭の種別と現状 発掘調査トレンチ（杉田東漸寺貝塚、横浜市立杉田小学校校庭整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査）、消失

露頭面の向き、傾斜 北東向き、傾斜 57°

走向・傾斜 ほぼ水平

堆積物の種別 粗粒砂（海成層？）

年代 不明

採集作業者 森山哲和（考古造形研究所）

採集立会い者 田口公則、松島義章

採集日 2005 年 6 月 14 日

関連文献等 横浜市教育委員会・財団法人横浜市ふるさと歴史財団（2006）杉田東漸寺貝塚本発掘調査報告 2－横浜市立杉田小学校校庭整備工事に伴う埋蔵文化財本発掘調査報告書－。

解説 杉田東漸寺貝塚において、鯨偶蹄目ヒゲクジラ類ナガスクジラ科の左下顎骨の化石が産出した層



図 Ic-12-6. 剥ぎ取り標本の採集の様子。

準付近を剥ぎ取った標本。化石は、大きさと形態からコククジラ属ではない。ナガスクジラ属の可能性が高いがザトウクジラ属でないと言い切れないので、両方の属を含むナガスクジラ科としておく。

記録者 大島光春



図 Ic-12-7. 剥ぎ取り地点の近接写真（剥ぎ取り作業終了後）。



図 Ic-12-8. 剥ぎ取り標本の採集露頭（ヒゲクジラ類ナガスクジラ科の左下顎骨、長さ約 2 m）。



図 Ic-12-9. 剥ぎ取り標本の写真。